



1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。
2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつとなります。）

## ガイダンス

- 第 1 週 人類の歴史400万年、文明の歴史1万年を自然環境への働きかけと技術進歩との関係で学習する。
  - 第 2 週 近代市民革命という人間社会の変化によって成立した近代社会成立の意味・意義を学習する。
  - 第 3 週 産業革命という人間社会の変化によって成立した大量生産・大量社会成立の意味・意義を学習する。
  - 第 4 週 大量生産・大量消費社会の進展によって起こってきた地球規模での環境破壊の現状を学習する。
  - 第 5 週 地球規模での環境破壊の中で特に地球温暖化の要因や現状を学習する。
  - 第 6 週 地球温暖化の結果としての異常気象の世界各地の状況を学習する。
  - 第 7 週 地球規模での環境破壊から環境を守る国際的な取り組みを学習する。
  - 第 8 週 地球温暖化対策の国際的取り組みを京都議定書の意義を含めて学習する。
  - 第 9 週 日本における明治以来の資本主義の発展と公害問題を田中正造にも焦点をあてて学習する。
  - 第10週 戦後日本の高度経済成長と公害問題をその対策も含めて学習する。
  - 第11週 環境問題のひとつとして先進国と発展途上国のエネルギー問題を学習する。
  - 第12週 環境問題のひとつとして日本のエネルギー問題を学習する。
  - 第13週 環境問題のひとつとして原子力エネルギーと原発事故の問題を学習する。
  - 第14週 環境問題のひとつとして自然エネルギー問題を学習する。
  - 第15週 循環型社会・エネルギー自給型社会について「豊かさ」の真の意味を考え直しながら学習する。
- ※「環境と社会」と関わる世界や日本におけるニュースを適宜教材化して授業で扱う。